令和４年度　静岡DWAT支部活動検討会アンケート

【中部】令和４年６月14日　参加登録員数16

【西部】令和４年６月16日　参加登録員数21

【東部】令和４年６月20日　参加登録員数31

〇リレー報告および感想共有はいかがでしたか

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | 回答者計 |
| 13 | ７ | １ | ０ | 21 |
| 62％ | 33％ | ５％ | ０％ |  |

＜印象に残っていることや考えたことを教えてください＞

|  |
| --- |
| 入浴支援。プライバシーに配慮した人員配置の工夫など |
| 避難者の方とのコミュニケーションが大切で、そこから必要なニーズが分かってくるということ |
| 実際の支援の場面での「うまくいかなかったこと」のお話がなるほとど思い、参考になりました。・入浴支援の男女のプライバシー（普通のことだが、仕事では異性の介護もありあまり気にしていなかった）・体操の人数や声の大きさ（多すぎ、大きすぎなど）・ケアマネに二重の報告をしてしまう（自分自身は一度しか伝えていなくても） |
| DWATの認知度が低く、「何をしてくれる人？」と思われることが驚きでした。認知度を高くしていくと共に、役割等を明確にしていくこと、またDWAT登録員がその自覚を持つことが課題に感じられました。 |
| 熱海への災害派遣で自分が行ったクールとそれ以外のクールでの業務内容の違いを再確認出来た。 |
| 報告により、より災害時初期からの活動がわかるようになった。 |
| とても前向きな感想が多かった印象です。でもきっと、課題はたくさん埋もれていると思うので、その辺りの整理を近いところから関係性を作って検討していく必要があると思いました。 |
| 被害が大きかったり家族に犠牲者が出た被災者には、声をかけないようにというルールがあったと言う報告を聞いて、他チームと連携分担して、ＤＷＡＴのその時の被災状況に合わせた役割をしっかり認識して行動する必要があると思いました。 |
| 別の避難所に移動したことによる環境の変化により、今までできていたことができなくなってしまった人へのサポートを行った話がとても印象に残り、静岡DWATのような支援体制は、避難所にとって、とても大切な存在だと考えました。 |
| 派遣活動に行く際、不安を抱えていたのが自分だけではなかったことがわかり安心感を得ることができた。コロナもあり登録員同士で話をする機会があまりなく経過していたのでこのような場はありがたかった。グループワークの時間がもう少しあると良かった。 |
| ・平時の顔の見える繋がりが大切である。・施設では男女関係なく支援するが、プライバシ－保護の観点から同性での支援。・行政等への連絡調整など、訓練をしていないと出来ない。平時の活動が災害福祉チ－ムの存在を支える。 |
| クール別にお話を聞くことができたので、どういった流れで支援が進んでいったのか、より詳細に分かりました。また、自身が児童分野で働いていて、高齢者が多い場合に派遣されたら何ができるのかと不安に思っていましたが、第１クールに行かれた川奈臨海学園の山田さんのお話から、普段児童分野で働く職員がどのように活動したのかが分かり、不安が軽減されました。 |
| 今回の報告で、立ち上げから時間経過により、役割や活動内容、派遣者の緊張・不安感の変化を感じました。実際に派遣されることになった際、何が役割で、何を行うかがある程度定まっていることで、若干不安は解消されるものと思いました。 |
| 災害派遣チーム内でもDWATの知名度が低く、活動のしにくさがあったと伺いました。まずは、地域住民にDWATを知っていただくことから始めたいと考えました。 |
| 情報共有では、長野県高知県の社協の方々もいらっしゃって有意義な時間でした。精神的不安はみなさんある印象でした。年に数回のなんらかの活動を行い、顔の見える関係を支部としても行っていきたいと感じました。 |
| 熱海派遣では、派遣時期（早いグループ、中間、後の方）によって、業務内容が変化していく様子が伺いしれた。多分、県社協の派遣された担当が一番その点は体感して判っているのではないか。 |
| ・他県DWATの状況などもうかがえた。・リレー形式で熱海の支援の様子が時系列で聴けて良かった。 |
| 皆さんのリレー報告等を受け、派遣時期により、様々な活動の差があることを感じました。どのような場面においても対処できるようにならなければ・・と感じました。 |
| 熱海派遣活動のリレー報告では、時間の流れによって、支援の方法も変わってきて一連の流れを理解できた。各々の視点があり、同じ支援者だが違う目線でのエピソードを聞けて参考になった。 |
| 派遣されるクールによって実施する内容が異なり、主に関係機関との繋ぎや電話連絡等が多い印象でした。日常の業務内容とかけ離れているため自分が派遣された時を考えると不安があります。 |

〇意見交換の内容はいかがでしたか

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | 回答者計 |
| 13 | ６ | ２ | ０ | 21 |
| 62％ | 29％ | 9％ | ０％ |  |

＜グループで出た意見や、ご自身で考えた、支部で取り組みたいことを教えてください＞

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 支部 | やってみたいこと | 目的や効果 | 必要なもの・こと |
| 【周知啓発】 |
| 東部 | ＳＮＳを活用した活動内容の拡散 | ＤＷＡＴの活動を周知し認知度が上がる | ・近い地域での顔合わせや、意見交換の場を作る（月１）・ビデオカメラ、ＳＮＳアカウント（実際の活動の様子をＳＮＳにアップ） |
| 東部 | 「ふじＢＯＵＳＡＩ」への継続出展 |  |  |
| 東部 | 知名度を上げる活動 | 出展 | 出せる場所 |
| 東部 | 地域イベントでの出展 | 地域への周知啓発 | 地域イベントの情報 |
| 東部 | ふじBOUSAIへの継続した参加 | 登録員同士の顔の見える関係の強化、地域への周知・還元 | ・防災用具の準備・登録員への連絡 |
| 東部 | 伊東市芸術祭出店 | 静岡DWATの周知 | 伊東市との連絡調整事務局との連絡調整参加要員の勤務調整 |
| 東部 | 伊東市芸術祭に出店 | 知名度を上げる | 熱海で活動した資料の提示、体験できること、触れるもの等※伊東市の芸術祭に出展の話しがありましたが、市役所に問い合わせたところ芸術的なものではなかったので不可となりました。 |
| 東部 | 定期的なイベントへの参加継続 | 活動を一般の方へ広める | 日頃から実践できるようにすること |
| 東部 | ＤＷＡＴの存在を周知 | 存在を周知することで、避難所へ避難しやすくする及び他団体との連携が円滑 | 支部メンバーでの打ち合わせ・活動内容の展示する場所・支部内での催し事への参加 |
| 東部 |  |  | 地域の教育機関や事業所・行政への周知活動 |
| 中部 | 登録員がいない市の福祉従事者へＤＷＡＴの啓発活動 | ＤＷＡＴをより多くの人に知ってもらう志太地区の登録員を増やす | 訪問可能の施設を探す日程・参加者の調整事務局との連携 |
| 中部 | 登録員空白地域への登録員加入運動 | 県全体の登録員倍増計悪５００名目標（３年以内） | 県担当部署への要請 |
| 中部 | 登録員の登録は即ち、法人の社会貢献に値する。 | 上記の倍増計画を達成するため | 各法人・施設の経営層への働きかけ |
| 西部 | DWATの活動を登録員以外の人たちに認知してもらいたい。 | 自身が派遣される際に、周りの人達への理解が事前にあれば、派遣時の自身の不安が解消され、支援に集中ができる。 | 登録員以外の人達へのＺＯＯＭやラインでの情報共有の実施。（登録員も参加できれば理解が深まりやすいと思われる。 |
| 【訓練・研修による資質向上】 |
| 東部 | 普段の活動の中での実践的な訓練（練習）ベッドの組立、移乗等 |  |  |
| 東部 | 各支部で集まり、実践的な研修を行う | 技術を身に付ける | 連絡手段・場所・ダンボールベッド・担架等の避難所で実際に使用する用具 |
| 東部 | 感染症対策に特化した研修 | 避難所での感染症予防に役立てる | 連絡手段・場所・感染症対策に詳しい専門家に協力して頂く |
| 東部 | 市町の防災訓練等で役割を見つける。 | 福祉避難所の設営や避難支援等 | 行政及び所属先の理解が必要、 |
| 東部 | それぞれの所属事業所、地区の防災訓練参加 | 専門職、地域への周知啓発 | 近隣登録員同士で声を掛け合う体制↓下記のような手軽な連絡システム |
| 東部 | 移動や移送の資機材の実地訓練 | 複数名２人以上で使用する資機材のコツをつかむ | 登録員養成研修の県立短大で訓練した時の移動や移送などの資機材 |
| 東部 | コロナ禍での学校の体育館 | コロナ体制での間仕切り（仕切り、ソ－シャルディズタンス）訓練 | ダンボ－ルなどの衛生管理用具 |
| 東部 | 定期的な段ボールベッド等の用具の使用訓練 | 登録員同士の顔の見える関係の強化、用具の使い方を覚える | ・会場、用具の運搬・登録員への連絡 |
| 東部 | 感染症に特化した勉強会 | 各分野の専門職の知識を活かすことができる | ・会場・登録員への連絡・資料作成 |
| 東部 | 登録員の事業所での訓練への参画 | ・登録員の顔合わせ・DWATの啓発 | ・事業所の理解・登録員派遣の派遣元管理者の理解 |
| 東部 | 県総合防災訓練等で、保健師や療法士団体との協働活動 | ・多職種との顔合わせ・DWATの役割の明確化 | ・他団体との調整・連携（訓練内容の共有化・実践・振り返り）・登録員派遣の派遣元管理者の理解 |
| 東部 | 感染症に関する研修 | 災害時において蔓延防止対応 | 専門職による研修や情報共有を図る |
| 東部 | 避難所での活動訓練 | 避難所での動きをロールプレイすることで、派遣された時の混乱を軽減できる | 実施場所・各団体への参加依頼・ |
| 東部 | 避難支援用具等の使用確認訓練・レクチャー | 支部メンバーの知識・技術の底上げ | 避難支援用具・活動場所・模範となる人物(事務局) |
| 東部 | 合同地域避難訓練 | 地域の方はもちろん、DWAＴの参加にて、宣伝効果 | 避難訓練のほかＤＷAＴの展示や講座の準備 |
| 中部 | 災害時に使用する器具や機材についての勉強会 | 器具や機材の扱いに慣れる。 | 器具や機材の確保 |
| 中部 | 各施設で実施している防災訓練にＤＷＡＴとして他施設の訓練へ参加する。 | 福祉従事者へＤＷＡＴの周知施設間の協力体制の強化施設ごとの災害リスクについて知る事が出来る | 施設同士で理解を得られるか？日程・参加者調整コロナの状況見極め |
| 中部 | 実際に持っていった（使用した）物品をみてみたい。 | 派遣の際にスムーズに環境を整えることができる。安心感が持てる。 | 事務局にある物品 |
| 中部 | 他事業所の防災訓練に参加したい | スキルアップに繋がる。顔の見える関係となる。 | DWATビブス等 |
| 西部 | 自身の専門分野ではない知識、技術の取得。 | 被災地に派遣された際にスムーズな活動が期待できる。 | ・派遣経験がある登録員から、どういった知識、技術が必要か聞き取り、リスト化を行う。・リスト化した内容に沿った研修の実施。 |
| 西部 | 災害に対する基本的な知識、対応の取得。 | 災害に対する基本的な知識、対応の取得。 | 被災時にどういった手続きが必要なのかのマニュアル作成、研修の実施。 |
| 【登録員同士の関係づくり】 |
| 東部 | 東部地区での連絡方法の確立（個人情報保護もあるので） |  |  |
| 東部 | タイムリーな情報共有システム(LINEグループの活用) | 登録員同士のつながり |  |
| 東部 | 横のつながり、顔のみえる関係 | 派遣時に役立つので | 日常の中で何かのつながりを持つ。Zoom等でも定期の連絡会などを開く。 |
| 東部 | 登録員のコミュニケ－ンを始める | 災害派遣された時に、静岡県代表の福祉チ－ムプレイをする | オンラインよりもリアルで、表（光）の体裁よりも、裏（影）に隠れた本音の話ができる |
| 東部 | 支部連絡調整 | 顔の見える関係性の構築 | ツール |
| 東部 | 支部情報交換会 | 近隣のDWATメンバーとの関係作り | 関係作りの為のテーマ何か催し物の際は、関係機関への交渉 |
| 中部 | 支部化のためメンバー構成や連絡網を確立して、一度集まり、年間の活動内容を決める。 | 顔馴染みの関係作り連絡をとりやすくする目標の明確化来年度に向けて振り返りが出来る | 登録員の個人情報の扱いをどうするか連絡網の確立　発信・情報収集のしやすさ集合場所（第二開寿園さんＯＫ）コロナ禍で顔合わせできるか？施設ごとコロナに対する考え方が違う |
| 中部 | 中部支部内の登録員の集まり（星野さんが強く発言していた。…その通り） | 一同に集まることにより、今後の活動内容を話し合いで決める。 | （県社協経由でなく）中部支部登録員同士での連絡方法 |
| 西部 | 定期的な活動報告会・情報交換会 | 顔の見える関係、横のつながり作り同じ事業所のDWAT会員ともつながりができる | 話し合いテーマ　日程調整 |
| 【その他】 |
| 東部 | 多職種交流会 | 保健師やJRATなど他職種との関係作り | 話し合いのテーマ共同で行える内容の選出 |
| 東部 | 包括支援センターとの連携 | 包括支援センターで福祉マップを作製していたので、地域の防災情報も盛り込む。また、介護保険領域だけでなく、障害福祉領域も同じように認知いただき、取りこぼしの無い支援、活動につなげていく。DWATとして介入することで、個々の施設の関わりから、地域の一つの力として視点と活動が広げられると考える | ・自分の地域で顔が見えるＤＷＡＴ活動・近い社会資源から繋がる機会を得ていく |
| 西部 | マニュアル作り | 災害派遣時の心得を持つことができる |  |

＜今後、実施してほしい研修等や事務局への要望がありましたらお聞かせください。＞

|  |
| --- |
| 訓練をもっと行っていきたい（移送支援用具の使用の仕方の確認の意味も込めて） |
| 皆さんの話をうかがえる機会をいただいて、本当に自分も何かの時には行くのだと改めて思いました。とても参考になりました。ありがとうございました。 |
| 今までの災害派遣での内容の比較等で新たな活動内容などを事前に練習出来ればと思います。 |
| いつも丁寧な準備、段取りをありがとうございます。要望は、事務局の方も幸せを嚙み締められる…そんなプランが遂行されることを願っています。 |
| 他県のＤＷＡＴはどんな活動をしているのか知りたいです。いつも写真が多い資料でとてもわかりやすく、勉強になります。 |
| 実施して欲しい研修：座学だけでは不安なので、実践的な研修が定期的にあると良いと思いました。要望：研修内での富士支部グループ会議にて、富士支部のみでの研修を行う際の連絡手段は、個人的にLINEを通じて行うのか、今回の研修のように各施設に連絡を入れて行うのかという意見がありましたので、支部活動はどのように行っていくのか、詳しく決めて頂きたいです。 |
| ＊駿東田方地区はエリアが広い。日常的な業務でつながり易い範囲で地域活動ができると良い。 |
| 昨年・今回のグループワークでは具体的な取り組みについての話まで辿り着けなかった。もう少し時間をかけて話ができる場があると良いと感じた。職員の移動、退職等で登録員の入れ替わりもあると思われる。現在活動が可能な登録員及び所属事業所の情報がわかると、支部活動にもつなげやすいのではないか。 |
| 体育館等で福祉避難所設置の模擬訓練など。 |
| 熱海伊東のグループ分けにしてしまうと、人数が少なく、活発な意見が出にくいと感じました。もう少し多い人数でのグループワークが出来たらよかったと思います。熱海市で活動する際に、顔見知りの人と一緒に活動するのと、知らない状態で活動するのとでは全然違いました。引き続き、色々な人と交流ができる場があればいいと思います。これからもよろしくお願いします。 |
| 岡山県や熱海市の活動報告を拝聴した中で、ニーズ把握、なんでも相談窓口の設置、不活性化による健康被害の防止、感染蔓延防止対策の活動を柔軟に行ってきた印象を受けました。被災地支援は不確定要素が非常に多いため、その時々の状況により判断し、行動していく必要性があると思います。　一方で、福祉の他分野職種で組織されるDWATとして、核となる活動の明確化も派遣された職員の不安を解消する意味において有効であるとも考えます。支部化により、顔を合わせ、連携強化が期待できます。それと並行して、DWATの役割と具体的行動の指針を事務局で取りまとめていただき、それに合わせて各支部等での訓練や取り組みをしてくことも欠かせないと思います。　終わりに、以前参加させていただいた報告会であったか記憶が定かでないのですが、事務局の心配をされている方がいました。事務局側のフォローも体制の安定化という観点から時々振り返っても良いかと感じます。 |
| 他県交流ができれば面白いと思います。平時の取り組みの議論をしてみたいです。また、静岡県は支部化という組織展開をしましたが、他県はどのような感じで組織構築しているのか、いくのかなど。検討会企画ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。 |
| １．登録者の増加のための継続的研修２．市町社協への、DWAT活動の理解と協力３．事務局要望・県担当課へ、介護報酬改定時に提示された①ＢＣＰにおける②訓練（防災訓練）の実施が③地域内の登録員施設が連携・協力して実施された場合、そのことが地域住民参加による訓練実施となることの確認（介護保険実施指導等で評価されることの確認） |
| 自分自身が知識も技術もない為学びの場があると非常に有難いです。支部メンバーの大半が同法人職員ではあるが、他法人の方もいらっしゃるため、連絡手段が欲しいと感じました。また、他支部の活動等も是非参加させて頂きたいと思います。今後他支部の方や事務局の方からの平時の取り組みについてのアドバイス等を頂けたらと思いますのでよろしくお願い致します。 |
| ・地区や支部ごとでどのように会合されているのか知りたいです。・今回オンライン研修だったので連絡先をうかがうことができなかったのですが、将来的に可能になれば、顔を見てお話しできるともっとたくさんアイデアが出ると感じました。 |
| 今回ホテルでの聴き取りで特殊な状況だったかもしれませんが、被災地におけるアセスメントの研修など行えるとよいかと思いました。何度も重複の聴き取りで嫌になってしまう被災者もいると思うため。 |
| グループトークの際、振り返りの会の様な書記や進行補助がいた方が、より自由に話をすることが出来たのではと感じた。グループ分けを近隣の施設でまとめていただいたが、近隣施設の交流が増加したり、小規模支部活動が出来始めてくれば、あえて離れている施設同士のグループ分けを行い、派遣の際でも顔見知りの関係があれば、支援により集中できると感じる。 |